

国際医療福祉大学 成田保健医療学部 医学検査学科における国際交流活動について

片山 博 徳*

はじめに

積極的な国際交流活動はグローバル化の加速する現代においてはとても大切であり、著者が勤務しています国際医療福祉大学は国際貢献のできる医療福祉専門職を養成するために、学内組織として国際部や国際交流センターが設置され、国際的に様々な協力研究や研修活動等に積極的に取り組んでいます。

今回、本学での国際交流事業と著者自身が経験させていただいている活動についてもご紹介させていただきます。

I. 本学での国際交流活動について¹⁾

1999年に本学の基本理念の1つである「国際的センスを備え、いかなる国の人々も伸び伸びと協働できる真の国際人を養成すること」を具現化するものとして、正規授業科目(2単位)の『海外保健福祉事情』へと発展しました。

著者どもが担当します医学検査学科では大川キャンパス、成田キャンパスとも2年生を対象とした必修科目として開講されています。

この海外研修は学部生全学年・全学科を対象としており、どこに参加しても①その国の医療事情についての講義の受講②病院や福祉施設の見学③日本の文化を紹介する国際交流イベント「Japan

Day」の開催を実施しています。また、医療スタッフの指導のもと、患者さんのケアの補助等の実習を行います。

授業科目の『海外保健福祉事情』には現地に赴く海外研修のほか、オリエンテーション、事前講義、帰国後のレポート提出や報告会での発表、活動報告書の作成が含まれています。

2020、2021年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により全方面への渡航が中止となりましたが、海外の各協定機関の協力のもと、オンライン代替措置を実施することができました。オンライン代替措置は中国、韓国、台湾、タイ、ベトナム、ミャンマー、シンガポール、オーストラリア、イギリス、カンボジア、フィリピン、マレーシア、ハンガリーの計13ヵ国で実施しました。

II. 国際交流活動のきっかけとその後の活動

著者がなぜ国際交流活動に携わるようになったのかをご説明をし、さらに坂本理事長、齊藤編集委員長はじめ本教育協議会の先生方と一緒にさせていただいています日本臨床衛生検査技師会の国際活動についてもご紹介いたします。

1. 国際交流のきっかけとなった日本・タイ細胞診ワークショップ²⁾

著者の前任地である日本医科大学多摩永山病院で日本の細胞診(主に穿刺吸引細胞診)をタイ国に

* 国際医療福祉大学 成田保健医療学部 医学検査学科 katayama_hironori.1960@iuhw.ac.jp

広めようということから、日本医科大学とチェンマイ大学医学部が1966年以来共同研究を行ってきたという実績に基づき始まった活動です。

第1回は1994年8月に日本・タイ細胞診ワークショップとしてタイ国チェンマイ大学で開催されました。このワークショップには細胞検査士、細胞診専門医、臨床医、病理医、臨床検査技師が参加しています。2001年にはこの会がきっかけとなりタイ国の細胞学会が立ち上がりました。1998年の第8回ワークショップからは日本臨床細胞学会、タイ国細胞学会後援のもとで開催され

ることになり2018年には25回の記念式典も執り行われました(写真1)。近年ではアメリカ、カンボジア、ラオス、シンガポール、マレーシア、フィリピン、オーストラリア、ドイツ、韓国、香港等、多くの国から参加もありアジアの国際細胞学会的な存在になっています。今までに日本からは延べ800人以上が参加されています。本学成田キャンパスでは2022年より細胞検査士の大学院を開設いたしますので、このワークショップがグローバルに活躍できる細胞検査士の教育には最適であると考えます。

2. 日本臨床衛生検査技師会(以下日臨技)の国際交流活動への参加³⁾

学会活動への参加としてはInternational Federation of Biomedical Laboratory Science (IFBLS)があります。このIFBLSは1954年に創立されました。日臨技は1971年に正式に加盟し、日本での開催は1988年の第18回に続き、皆様の記憶にも新しい2016年に第32回世界医学検査学会が神戸で開催されました(写真2)。また、Asia Association of Medical Laboratory Science (AAMLS)がアジア地域との学術交流関係の構築を目的として1997年に日本において創設され、日本での開催は2009年に第3回AAMLS学会が横浜で開催



写真1

第25回日本-タイ細胞診ワークショップ(2018年1月)
著者(右)とタイ国の細胞病理医の皆さん



写真2

(左)第32回IFBLS学会で座長を務められる坂本理事長(2016年9月)

(右)第32回IFBLS学会で座長を務められる瀧川編集委員会委員(2016年9月)

されました。

また、2 国間の国際交流として大韓臨床病理士協会 (The Korean association of medical technologists : KAMT) との交流があります。この交流は 1972 年から始まり、1980 年に日韓協定書を締結し、双方の全国学会に代表団を派遣し、国際学生フォーラムは両国の学生発表の場となっています。また、中華人民共和国医療検査官協会 (Taiwan Association of Medical Technologists : TAMT) とは 2013 年より学術交流が始まり、その後、双方の全国学会に代表団を派遣し学術交流を行っています。また、学術団体としての台湾医事検査学会 (Taiwan Society of Laboratory Medicine : TSLM) がありこちらとも交流を行っています。卒業教育的な支援として短期の海外短期留学事業を日臨技と友好関係にある American Society for Clinical Pathology と合意のもと米国の医療施設にて研修を行っています。臨床検査の技術的な支援として近年、カンボジア臨床検査技師会と精度管理に関する事業等 (写真 3)、多くの国際交流活動に関わらせていただいています。

おわりに

国際交流は様々な国の多様な文化や価値観と出



写真 3

日臨技のカンボジアで精度管理事業 (2019 年 12 月)

右手前：斎藤編集委員会委員長

右 奥：カンボジア臨床検査技師会会長の

Ket Vansith, 先生

左手前：本学医学検査学科学科長の長沢先生

中央奥：本学医学検査学科学科教員の木村先生

会うことで臨床検査のために新たな考えや発想を生み出すきっかけになるのではと思います。

現在は 2020 年から新型コロナウイルス感染症のため海外への渡航制限により、これまで取り組んできた国際交流活動は大きな影響を受けており、この影響がいつまで続くのかは不透明な状況です。一方で、IT を活用した新しい形態の交流様式の有用性が認められ移動を伴わずに交流ができる点は、継続的な交流を行えるため交流機会の増加につながる可能性があると考えられます。

以上、様々な国際交流活動に参加する機会をいただき勉強をさせていただいています。

この国際交流の輪を広げて今後の教育活動に活かして行きたいと考えています。

文 献

- 1) 国際交流：学生の海外研修，国際医療福祉大学。
<https://www.iuhw.ac.jp/feature/international/training.html>
- 2) 片山博徳，細根勝，内藤善哉，前田昭太郎．教育講演 14 日－タイ二国間交流 25 年の歩みと今後の展望，第 58 回日本臨床細胞学会秋期大会．日本林相細胞学会雑誌 2019; 58 (suppl 2) : 501.
- 3) 日臨技関係 (IFBLS, AAMLS)
 - ・ IFBLS (ウェブサイト)
<http://www.ifbbs.org/>
 - ・ 宮島喜文．第 32 回世界医学検査学会を終了して．会報 JAMT 2016; 22 (18) : 1.
http://www.jamt.or.jp/ifbbs/docs/kaiho_jamt20160915.pdf
 - ・ 長沢光章，片山博徳．第 6 回アジア医学検査学会．会報 JAMT 2019; 25 (13) : 1-4.
https://www.jamt.or.jp/information/kaiho/prompt_report/asset/pdf/2019.7.15号.pdf
韓国、台湾
 - ・ 片山博徳．日韓・日台代表者会議開催される．会報 JAMT 2021; 27 (3) : 1-2.
https://www.jamt.or.jp/information/kaiho/prompt_report/asset/pdf/2021.2.1%e5%8f%b7.pdf
 - ・ 片山博徳．12th Asia-Pacific Forum of Medical Laboratory Science 2021 参加レポート．会報 JAMT 2021; 27 (9) : 1.

https://www.jamt.or.jp/information/kaiho/prompt_report/asset/pdf/2021.5.1号.pdf

技術支援、短期留学

- ・ 長沢光章, 片山博徳. 国際協力事業報告 カンボジアの臨床検査の質の向上事業 (1). 会報 JAMT 2018; 24 (22): 1.
https://www.jamt.or.jp/information/kaiho/prompt_report/asset/pdf/30.11.15%E5%8F%B7.pdf
- ・ 三澤成毅, 橋本尚文, 常名 政弘. 国際協力事業報

告 カンボジアの臨床検査の質の向上事業 (2). 会報 JAMT 2018; 24 (23): 1-2.

https://www.jamt.or.jp/information/kaiho/prompt_report/asset/pdf/30.12.1%E5%8F%B7.pdf

- ・ 國廣まり. JAMT 海外短期留学から ASCPi in Hematology 取得まで. 会報 JAMT 2021; 27 (20): 3.
https://www.jamt.or.jp/information/kaiho/prompt_report/asset/pdf/2021.10.15号.pdf